

はしがき

本書は、裁判員制度が導入されることになり、法教育の重要性が意識されるようになった昨今において、法教育とは一体どのようなものを指すのかを模索するべく書かれたものです。

本書は、序、第1編、第2編から構成されています。第1編は、識者3名から法教育について寄稿していただいたもので、総論的位置づけとなっています。これに対し、第2編は、各論として、「出張教室」が行って来た授業例を収録しています。

第1編に寄稿していただいたのは、鈴木啓文弁護士、吉田俊弘教諭、竹下慶判事補で、いずれも法教育に携わった経験のある方々です。

鈴木弁護士は、日本弁護士連合会の「市民のための法教育委員会」に所属されているほか、法教育推進協議会にも所属され、『はじめての法教育 Q&A』（ぎょうせい）の執筆に携わられるなど、法教育に深く関わってこられた法律実務家です。

吉田教諭は、筑波大学附属駒場中・高等学校に勤務され、同校において「出張教室」の発足した2004年度から「出張教室」の開催を引き受けていただいております。また、同校で教諭として勤務されるかわら、法教育研究会・法教育教材作成部会において「司法」グループの主担当をされたり、鈴木弁護士同様、法教育推進協議会・教材改訂検討部会のメンバーとして『はじめての法教育 Q&A』の執筆に携わられるなど、法教育に深くかかわっておられます。

竹下判事補は、法科大学院が発足した2004年度に東京大学法科大学院に入学し、中高生に法律にまつわる授業を行うことを目的とした「出張教室」を立ち上げたメンバーであり、「出張教室」の初代代表を務めました。東京大学法科大学院修了後、司法修習を経て、現在は、判事補

として、静岡地方裁判所に勤務されています。

鈴木弁護士からは法律実務家としての視点で、吉田教諭からは教育者としての視点で、竹下判事補からは「出張教室」初期メンバーとしての視点で、法教育についてご執筆いただきました。

第2編は、授業をつくる過程から、授業当日の生徒たちのリアクション、そして授業を終えた後に、授業をした者が考えさせられたことなどを、授業例とともに収録しています。

「出張教室」は、法科大学院が発足した2004年度に始まり、今期で第5期を迎えようとしています。授業を終えた第4期までのものだけでも、授業例は30を超えます。本書では、「出張教室」が行ってきた30以上の授業例の中から、第4期のものを中心に、扱ったテーマ、内容のバランス等を考慮し、9つの授業例を収録しました。

この第2編の構成・概略については、第2編序章に譲りたいと思います。

序では、「出張教室」の顧問でもあり、本書の監修もつとめていただいた、大村敦志先生に法教育への思いを綴っていただきました。

本書は、法科大学院生が行った授業を基軸に法教育とはどのようなものなのかを模索していこうという実験的なものですが、本書が、法教育を考える一助になれば、これにまさる喜びはありません。

最後になりますが、本書の出版をご提案くださった社団法人商事法務研究会の松澤三男専務理事、原稿の整理・校正等にご協力いただいた株式会社商事法務書籍出版部の岩佐智樹氏のお力添えに厚く御礼申し上げます。

平成20年10月

東京大学法科大学院
「出張教室」一同